

消化器外科・小児外科

●スタッフ（平成28年10月1日現在）

診療科長 勝又 健次
 医局長 林 豊
 病棟医長 太田 喜洋
 外来医長 細川 勇一

医師数 常勤 25名
 非常勤 14名

●診療科の特徴

当科では成人の消化器疾患と、小児外科を扱っている診療科です。消化器疾患を臓器ごとに上部(食道・胃)、下部(大腸・肛門)、肝・胆・膵の各グループに分け、また小児外科グループも含め、最先端の医療を提供できるように診療・研究を行っています。

食道癌については、内視鏡下切開剥離術を早期癌に行い、DaVinciによる手術も先進医療をにらみ取り入れております。胃癌の早期癌には適用によりセンチネルコンセプトを利用した腹腔鏡補助下切除術を行っています。進行癌には新規抗癌剤による治療を積極的に行っています。

結腸癌・直腸癌の約70%を腹腔鏡下に施行し良好な成績を得ています。また肛門の機能温存手術(自律神経温存手術・内括約筋のみ合併手術など)を行い、患者様のQOLに貢献しています。

肝切除・膵切除例は都内でも有数の症例数を誇っております。癌の制御を目指し手術だけでなく新規抗癌剤などによる術後補助療法を積極的に行うとともに、その副作用を患者血液の遺伝子解析を利用して予測する研究も行っており治療に役立たせております。

小児外科領域は食道裂孔ヘルニア・Hirschsprung病・鼠径ヘルニアに対して腹腔鏡下手術を導入し良好な成績を得ています。また小児泌尿器科的疾患も積極的に手術を行い良好な成績を収めております。

●診療体制と実績

全体の手術総数は850例でした。例年750～950例で推移しております(図1)。

食道癌の切除例(手術・内視鏡的切除)は年間74例で、胸腔鏡を含む開胸による手術は44例で、早期癌に対して行われた内視鏡下切開剥離術は30例でした(図2a)。胃癌の切除例(手術・内視鏡的切除)は年間89例で、腹腔鏡下手術は29例でした(図2b)。腹腔鏡手術は年々増加傾向にあります。

結腸癌・直腸癌の切除例は年間217例で、近年増加傾向にあります。また、かねてから手術症例のうち70～80%の症例に対して腹腔鏡下手術を取り入れており、良好な成績を得ております(図3)。

肝切除・膵切除例はそれぞれ年間37例/119例です。とくに膵臓疾患については近年増加傾向にあり、都内でも有数の膵切除を行える機関になっております。また腹腔鏡下手術を積極的にとりいれております(図4a,b)。

小児外科領域は年間185例の手術を行っております。2011年からは小児泌尿器科的疾患も積極的に手術を行っており、手術の増加が得られております(図5)。

図1：総手術件数

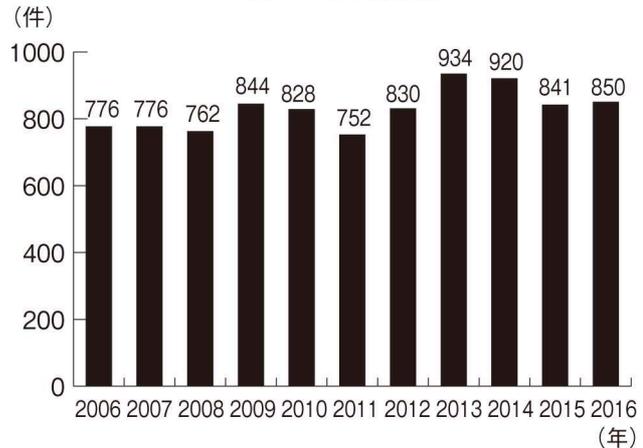


図2a：食道切除

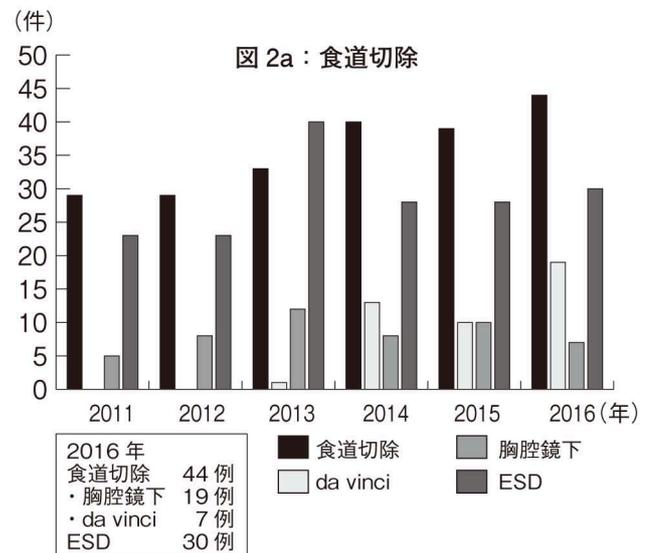
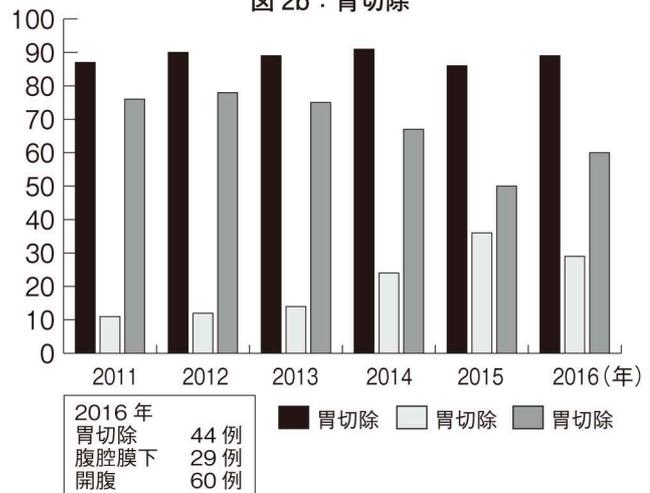
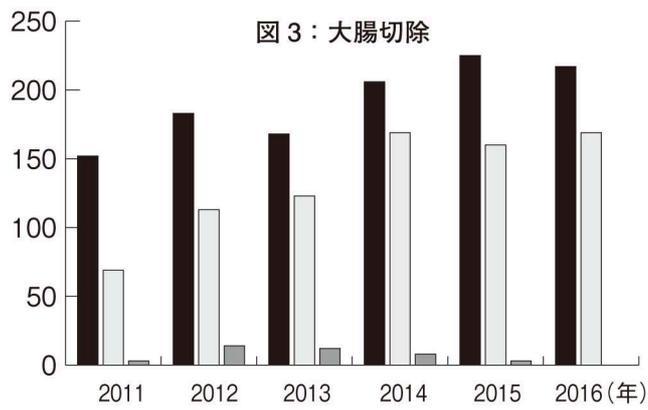
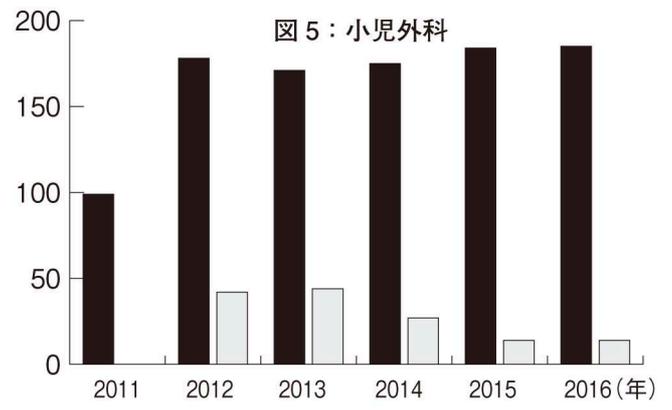


図2b：胃切除

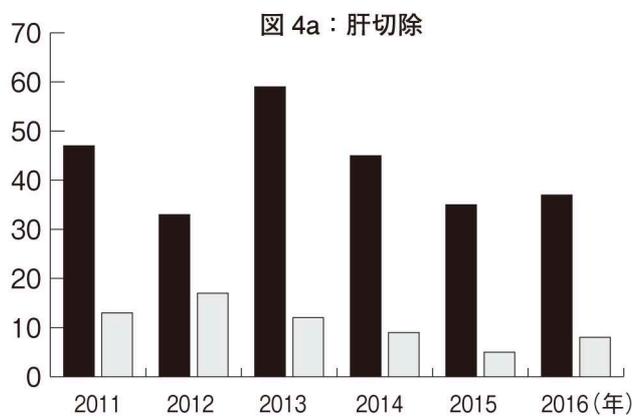




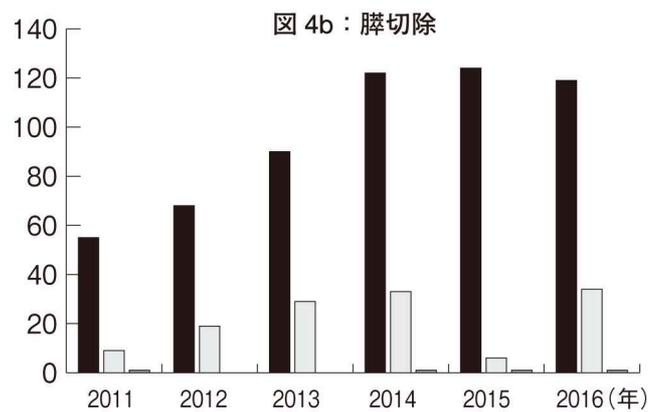
2016年
大腸切除 217例
・胸腔鏡 169例
・da vinci 0例



2016年
手術件数 185例
内視鏡下 14例



2016年
肝切除 37例
胸腔鏡 8例



2016年
膵切除 119例
・腹腔鏡 34例
・da vinci 1例